

第33回 暮らしの中の薬草学 身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

ムラサキオモト

学 名 Rhoeo discolor Hance
科 名 ツユクサ科
属 名 ムラサキオモト属
使用部位 葉、花、根茎根塊
有効成分 フラボノイド、アントシアニン
サポニン、カロテノイド、テルペノイド、
クマリン、ステロイド、ビストール



ムラサキオモトの特徴

メキシコ、西インド諸島原産で、高さ20～60cmの不耐寒性の常緑性多年草。沖縄では野生化している。短縮した茎の先から披針形の葉を多数出し、葉脚は茎を抱く。葉は茎の先端に集まってつき、斜めに広がり長楕円披針形で長さは15～25cmで幅4cm、先はとがり、やや多肉質で、表面は緑、裏面は紅紫色で美しい。開花期は7～8月。葉と葉の間から2枚の苞葉が出て、それに包まれるようにして花が咲く。がく片、花弁ともに3枚で、花弁は白色か淡紫色。雄しべは6個で、花糸には細毛がある。種子はよくでき、よく発芽するが、寒さに弱く15度以下での越冬は難しい。

ムラサキオモト属

ムラサキツユクサに似ていてムラサキツユクサ属に入れていたが、花序のつき方が異なっているため、ムラサキオモト属が新設された。ツユクサ科のムラサキオモト属は世界に一属一種しかいない。変種としては、葉の両面とも緑のミドリムラサキオモトや葉に淡黄色の縞のある斑入りムラサキオモトなどがある。

ムラサキオモトの名前の由来

葉がオモト(ユリ科)に似て、葉の裏面が紫色であることからこの名となる。紫金蘭、紫錦蘭の名称は、葉裏の色から園芸愛好家の間から出たもので、漢名ではない。沖縄では、首里のアカウムト、石垣島のオンバンウムトウがあるが、ウムトはオモトの沖縄方言。学名のレーオデスカラーのレーオは人名に由来する。デスカラーは葉の表面が緑、裏面が紫と二色であることに由来する。ヨーロッパには1783年ごろに入ったようだが、仏名も独名も二色の意味を持つ名前になっている。英名はBoat-Lilyで、苞をボートに見立て、白い花が咲き、葉の外観がユリ科に似るところからきている。

ムラサキオモトの歴史

文化年間に渡来：斎藤月岑著『武江年表』(1878年)によると文化13年(1816年)の項に「紫おもと初めて渡る(おもとと号すれどもリロ(シュロソウ)の種類にはあらず、始めは高価を以てひさぎたり。寒を恐るる故唐むろにて養う)」と記されている。小笠原諸島には明治8年(1875年)に入っている。

『草木図説』の解説：飯沼慾斎は『草木図説』(1856～1862年)7巻にムラサキオモトの精細な図をのせ、解説している中で「この草琉球産にして性最畏寒、冬蔵密ならざれば育しがたし」と記している。最も寒さをおそれるので、冬は囲いなどしないと生育が難しいという。江戸後期のこの頃、すでに沖縄地方では、野生化しているところもあった。

ムラサキオモトの薬効伝承

肺炎、血便、血尿、咳、痰、百日咳、肺結核、下痢、腸炎、消化不良、打身、虫下し、ブリヤキ・タリニツ、便秘、痔、腹痛、赤痢、火傷

参考：日本大百科全書、沖縄の薬草百科、
世界大百科事典亜熱帯植物資源データベース、薬草カラー図鑑

ムラサキオモト抽出液配合のOTC

ムラサキオモト抽出液はウィルス・細菌が原因となり起こる急性の下痢や精神的緊張（ストレス）による下痢、腹痛の伴う吐き気、嘔吐、悪寒に効果的である。長年、下痢や腹痛の特効薬として医薬品販売されている。副作用もなく安全性が高いので清涼飲料水もある。

ムラサキオモト抽出物の化粧品及び薬剤、特に皮膚科、への使用

ムラサキオモト抽出物には、ケラチノサイトの分化の促進、フリーラジカルの作用の防止、グリコアミノグリカンの合成を促進する作用を有することが確認された。

ムラサキオモト抽出物配合クリームは、皮膚の水和を促進、柔軟性・張りを促進、光沢を与え、皮膚老化を防止する。塗布後3日目皮膚に潤いがでて、きめ細くなり、皺・小皺が消失する。

また魚鱗癬、乾癬に罹った皮膚の治癒を行うことが可能である。 参考：asta・muse

ムラサキオモトエキス含有ペット用入浴剤

ムラサキオモト抽出エキス含有のペット用入浴剤は、ペットを入浴させることで雑菌の繁殖の抑制・除去ができ、ペットの皮膚や毛を清浄に保つことができる。ムラサキオモトエキスには、殺菌や整腸作用を発揮する成分が含まれているため、飲んでしまっても、腹痛や下痢の心配はない。ムラサキオモトエキスが皮膚や毛に残っていても、皮膚がかぶれるなどの問題はない。またアントシアニンによる抗酸化作用が期待できる。血行が良くなる、代謝が良くなるなどの効果が期待される。体表面に付着したアントシアニンによって皮膚や毛の紫外線によるダメージを低減することも期待できる。

参考：生命科学関連特許公開 特許公報情報

ムラサキオモト抽出エキス成分

ムラサキオモト抽出エキスは、ポリフェノール（フラボノイド・アントシアニン）、サポニン、カロテノイド、テルペノイド、クマリン、ステロイドなどを含有する。

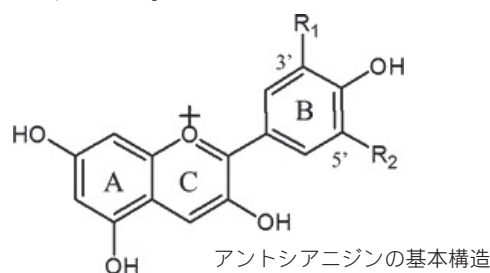
参考：KKオムネズ

アントシアニンの効能効果

- ・視覚機能を改善する効果
- ・眼病予防効果：白内障・緑内障の予防効果

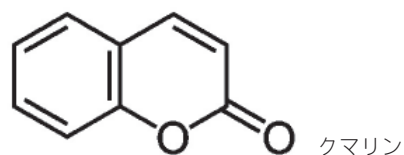
- ・メタボリックシンドロームを予防する効果
- ・花粉症予防効果（ヒスタミンを減少させる）

アントシアニンはアントシアニンに糖や有機酸が結合したもので、長時間の加熱や長期間の保存に弱いため、アントシアニンの働きや効果を保つためには、安定した形で摂取することが重要である。またアントシアニンは体内に吸収されると、24時間以内に尿と一緒に体外へ排出されるので、毎日続けて摂ることも重要である。



クマリン（ラクトンの一種で芳香族化合物）

- ・ラットに、クマリンを10mg/kgを投与したところ、血中および網膜中の酸化ストレスの指標物質MP0濃度が減少したことから、クマリンが抗酸化力により血液・網膜保護作用を持つことが示唆された。
- ・クマリン化合物に鎮痙作用（痙攣を抑える働き）を有する働きがあることが確認された。
- ・肝細胞（HSC-T6細胞）に、オカゼリ果実に含まれるクマリンを投与したところ、肝臓の線維化が抑制されたことから、クマリンが肝臓保護効果を持つことが示唆された。
- ・オカゼリ果実に含まれるクマリン誘導体は、抗アレルギー作用を示したことが確認された。



フランスのウビガン社が人工合成のクマリンを元に1882年に香水を調合することに成功し、「フジュール・ロワイヤル」と名付けて発売し、人工合成材料による香水の製造が始まった。

タバコの香料として用いられるが、発がん性が生じるとも指摘されている。

参考：農研機構、わかさの秘密